

CSR (企業の社会的責任) とは？

Corporate Social Responsibility は新しい概念、欧米が起源

- ・ 20世紀の考え方：法律に触れない限り利益を追求 (例外：公害)
利益が出たら、メセナ、地域貢献、貧者救済
- ・ 大企業の不祥事 (粉飾決算、インサイダー) 多発
- ・ “個人の倫理” と同様に企業も “企業倫理” に基づき行動すべき
- ・ アメリカ SOX 法、日本の J-SOX・内部統制など：情報開示、説明責任
- ・ 日本の商売人の思想：
石田梅岩「二重の利を取り、甘き毒を食らい、自死するようなこと多かるべし」
近江商人「三方よし：買ってよし、世間よし、売り手よし」(中村宗岸)
三井家家訓「多くをむさぼると紛糾のもととなる」
渋沢栄一「論語の教訓に従って商売し、利殖を図る (士魂商才)」
松下幸之助「産業人の使命は貧困の克服にある (水道哲学)」
- ・ 公共政策の補完、コンプライアンス、リスクマネジメントなどの視点
- ・ 21世紀の新しい社会的課題：環境・省エネ・生物多様性

企業を取り巻く利害関係者(ステークホルダー)に対する責任

基礎的：社長—他の役員、社員、子会社

事業上：投資家 (株主)、消費者一般、顧客、取引先、地域社会、環境・エネルギー、海外政府や地域住民、NPO など

責任：・まずは関係法令の遵守、法の趣旨に則った企業活動

・本業遂行の中でステークホルダーとの間に「長期的信頼関係」

→ブランド力、開発力、資金力、組織力、協力会社など「企業の競争力」

“相手に配慮すべき”ではなく、“相手に配慮するビジネスをしたら儲かる (企業価値向上)” とのアプローチ ——>企業・経営者のモチベーション

サステナブル (持続的) に本業の戦略を支えるのが CSR： 八方美人ではなく、どのステークホルダーを優先させるか？<——トップの意思、戦略

CSR の世界標準化

国連グローバル・コンパクト、経済的・環境的・社会労働的側面で評価

投資家の評価：エコファンド、SRI/ESG 投資、サステナビリティ・レポート